

# 清樹会会報

発行・編集  
社会福祉法人 清樹会  
平成27年4月1日

Vol.2

## 理事長より

社会福祉法人 清樹会理事長 五十嵐 弘一

最近、立场上、国や地方の議員さんと会う機会が多くなりました。皆さん、異口同音に介護は「金食い虫」だとおっしゃる。そう、数字だけを見れば、介護つまり社会保障費は、数多ある国家予算の項目で、毎年1兆円ずつ確実に増えていくのですから。

「金食い虫」には、違いありません。

昨今、流行の国防費でさえ、内外からの批判もあり、定期上昇など、ありえません。

「何とか、減らさないと現状維持でも大変なのに……」と、続きます。その通りだが、その後、私はこう言います。「でも、明日明後日ではなくても、いつか必ず来る貴方の問題でもありませんよ。」

いつも、そこで、会話が止まり、沈黙の時間が訪れるかように、我々が、日々直面、従事している介護の現場は、国家の究極かつ根が深い、言い換えれば、解決の糸口が見えない課題ともいえる。報道によれば、10年後の2025年には、日本人人口構成ピラミッドの中心腹を成して来た団塊の世代がそっくり75歳越の後期高齢者となると言っ。

つまり、数百万人のご老人が、実社会に放出(失礼)され、その1/4強が、介護のお世話になる予備軍だ。それに伴い、医療費は、10年で現在の3.5兆円強から5.4兆円にまで膨らむ。昨今の国家予算が、100兆円

(半分が借金返済の国債だが)であるから、いかにこの数字の意味する所が、大きいか、かわらうと言っもの。

翻つて、我が業界を見渡してみよう。現在、介護業界の職員数は、全国で180万人位か。これが、10年後に、200万人を越えれば、良い方との算定だが、実際には、250万人の現場介護職員が必要になるだろう。このギャップをどう埋めて行くのだろうか？ 10年後に処理出来る話ではなく、今の世代で考えていかねばいけない話だ。大きな事を口にする様だが、もはや、机上論で、政治家や関係する監督官庁にだけ任せておけば良い状態ではないし、その時間も無く感じる。

小手先の処遇や職場環境の改善では、とても追いつかない所まで、来てしまっている。先月下旬、「日本看護事業連合会」と言う法人が発足しました。施設や中小の自治体で、個々に上げていた小さな声を、業界の皆で大きな波にして、多少なりとも業界の有り様、職場の現状を国政に訴え、反映して欲しいとの団体の発足です。

弊社も及ばずながら、その声に賛同、参加をする事にしました。多くの施設関係者が参加し意気軒昂な他府県に比べ、我が福島県は、同業が見受けられず、関心が薄い様で、残念ではありましたが、逆に、県内では、我々清樹会が、模範になれる様務めて行きたいと思っ次第です。

これから、何らかの形で、県中に留まらず、外は、福島県の業界にも、声を掛け、内では、弊社グループ、施設間にも発信して、経営と現場の皆さんに良い影響を与えられたらと思っています。

私は、常時に、各施設に顔を出せませんが、現場の皆さんの汗と笑顔を見るいつも感じます。「介護は、国家繁栄後のお荷物の処理ではなく、これから新たな経済活動の一環であり、嬉々として、参加したい様な仕組みにしていかなければならない。」

新年度に向け、言述べさせて頂きました。

## 特別養護老人ホーム「牧場の朝」から

特別養護老人ホーム 牧場の朝 根本 義正  
昨年の10月1日に法人本部から牧場の朝に異動になりました。

新米施設長の日常は、朝の入居者様への挨拶にはじまります。毎日、お会いしている方々から「いつもくる あ爺さんだれ」と後ろから声を掛けられたり、また「気をつけてね」といたわりの言葉をいただくこともあります。年代が近いせい、か、直ぐにお近づきになることができました。

振り返れば、私にとつての牧場の朝は、特別な思い出があります。それは牧場の朝の開設準備に携わることができたこと、その途中に起きた平成23年3月11日の大震災です。震災の翌日、ヘルメットを着用し、本部の開設準備室の仲間と閉鎖されていた建築現場に無断で潜り込みました。建物に特段の被害が無かったと知った時は、本当に嬉しいという、安堵感で胸がいっぱいになりました。

その後、地震の影響で4月1日に予定していた新入職員の入職式は急遽中止。それでも、その年の12月1日に無事オープンにこぎつけられたことは、開設準備に情熱を傾けた牧場の朝の全職員が一致団結し

たからと信じております。その皆さんの活躍のお陰で今の牧場の朝が有るのだと感謝しております。そういう、牧場の朝にこのたび帰ってくる事が出来たのは、何かの縁だと強く感じております。

ここ牧場の朝は、岩瀬郡鏡石町の岩瀬牧場に隣接する場所に開設致しました。岩瀬牧場は、明治13年創業の日本最初の西欧式牧場で、文部省唱歌「牧場の朝」発祥の地で、10万坪の広大な敷地の中には、牧場施設や四季折々の花たちが美しく咲くフラワーガーデン、資料館等があります。

4月中旬からのさくら祭りから、5月の子どもまつり、6月のシャクヤク祭り。通年行事の岩瀬ファーマーズマーケットが開催され、子供からお年寄りまで自然の中で自由に楽しめる場所です。

牧場の朝は昨年の12月1日に開設3周年を迎えることができました。

続いて、今年の1月9日に、入居者の渡邊カネ様が百歳を迎えられました。施設の職員による手作りのケーキが贈られ、渡邊カネ様とユニット職員との記念撮影、アトラクションでは日本舞踊が披露されました。また、乳牛をデザインした鏡石町公式キャラクター「牧場のあーさー」も施設を訪れ祝福してくれました。この祝う会は同日夕刻のニュースでも放映されました。

牧場の朝では、今年中に百歳を迎える入居者様もいらっしや、引き続き百寿のお祝い出来ることは、大変喜ばしい出来事と思っっております。

これからも、施設理念に掲げている「あなたらしく、私らしく共に歩もう」地域と共に未来をつくる「心一つに」を、職員ひとりひとりが心に刻み、全職員の力を合わせて、入居者様とその人らしい楽しい生活を営むことができるよう努力していきたいと思っます。職員ひとりひとりの力が合わされば、大きな「和の力」となります。今後ともどうぞよろしくお願致します。